

報道関係者 各位

2022年5月3日

## ジャパン・ハウス ロンドン 『Symbiosis: Living Island シンビオシス：生きられた島』展

2022年5月21日（土）－ 9月4日（日）  
ジャパン・ハウス ロンドン 地下ギャラリー・地上階ショーウィンドウ・展示ブース



*Inujima "Art House Project" A-Art House, Beatriz Milhazes: Yellow Flower Dream, 2018.  
Photo: Yoshikazu Inoue. Courtesy of Fukutake Foundation*

ジャパン・ハウス ロンドンは、2022年5月21日（土）から9月4日（日）まで、  
『Symbiosis: Living Island シンビオシス：生きられた島』展を開催します。瀬戸内海の犬島という小さな島で2010年から進められてきた、アート、建築、自然、そして人々との交流をとおして活力あるエコロジカルな地域づくりを目指した犬島「家プロジェクト」の活動を紹介する展覧会です。

本展は、金沢 21 世紀美術館館長の長谷川祐子氏をアーティスティックディレクターに迎え、2010年プリツカー賞受賞の SANAA/Sejima and Nishizawa and Associates（2009年のサーペントイン・パビリオン設計担当）設立者の一人である妹島和世氏が展示デザインを手掛けています。

瀬戸内海に位置する面積 0.54km<sup>2</sup>の犬島は、歩いて1時間ほどで回れる小さな島。島を回遊する道をベースに点在するアートやパビリオンが、犬島の景色や島の人々の生活に溶け込み、島全体がまるで美術館のようです。2010年から公開されている犬島「家プロジェクト」（アーティスティックディレクター：長谷川祐子氏、建築デザイン：妹島和世氏）は、株式会社ベネッセホールディングスと公益財団法人 福武財団が、瀬戸内海の直島、豊島、犬島で展開しているアート活動「ベネッセアートサイト直島」のひとつで、文化芸術活動を通して高齢化・過疎化に直面する島の活性化、また持続可能な地域社会の実現を目指した取り組みです。

展覧会のタイトルに据えられた「シンビオシス」は、生態学用語で「利他共生」を意味します。本展では、お互いに助け合って共に暮らすという意味だけではなく、万物は共にありお互いがお互いを利することでより進化をしていくということをメタファーとして表現しています。本展では、アートと環境の一体化、島民と来訪者との交わりから導かれる相互扶助の関係、そしてその相互扶助の関係がきっかけとなり島の変化、成長、活性につながっていることなど、犬島で育まれる「共生」のあり方を垣間見ることができます。

本展は、犬島にあるアートや建築作品、そして島内で実施されているさまざまなプログラムの拠点など犬島の日常を再現したジオラマインスタレーションとして展示します。その他写真や映像、また島民の生の声を収録した記録映像をとおして、犬島「家プロジェクト」がもたらした島の変化や、犬島が「生きられた島」となる過程をたどります。また、長谷川氏が描く島の長期的な未来設計図も展示し、アートが自然や地域社会に溶け込み、地域が活性化し人が繋がることでどのような化学反応が起きているのか、シンビオシス（利他共生）のコンセプトを読み解きます。地域住民の積極的な関わりにより発展してきた犬島の活動が、日本の新たな地域活性化のモデルケースとして、これからの新しい生き方や未来のあり方を考えるきっかけとなることを本展は目指します。

ジャパン・ハウス ロンドン地上階の展示スペースでは、ブラジル人アーティストのベアトリス・ミリヤーゼス氏の作品『Yellow Flower Dream (2018)』の一部を原寸大で再現し展示します。犬島「家プロジェクト」の一環として、島内にある5つのギャラリーの一つ「A邸」に制作されたこのサイトスペシフィック作品は、ミリヤーゼス氏が「A邸」を初めて訪れた際に受けた「島のコミュニティと自然が融合する彫刻」という印象をもとに制作されました。犬島の自然や人々の暮らしの中に息づく生命感を鮮やかな色彩を用いて表現した花の形のアート建築作品は、見る人の想像力を掻き立てるだけでなく、見る角度や日の光によって表情を変えるため、島民にとって馴染み深い島の自然の中に新たな発見や視点を与えてくれます。

## 犬島「家プロジェクト」の取り組み

かつて銅の製錬業と採石業で栄えた犬島。現在、名和晃平氏、荒神明香氏、浅井裕介氏、オラファー・エリアソン氏など、世界有数のアーティストが手掛けた作品が公開されている集落内のギャラリーは、「在るものを活かし、無いものを創る」という考えをもとに、

犬島の遺構をそのままの形で保存しながら、古民家の古材、透明なアクリル、アルミなどの素材でつくられており、それぞれが島の景観、エコロジー、産業遺産の保存・再生に貢献しています。

現在も成長を続ける犬島「家プロジェクト」は、2016年から「ランドスケーププロジェクト」を始動。その一つ目の施設として、長く使われていなかった温室と土地を再生した「犬島くらしの植物園」が開設されました。この取り組みに賛同する外部企業や事業者により、来訪者がくつろげるカフェやバー、アメニティ施設も開設されました。また、島内ではさまざまなワークショップやイベントが開催され、島民と来訪者の交流や学びの場も提供しています。島を一つのアートと文化のためのプラットフォームとして解放すること、そして単なるアートの場としてだけではなく、島そのものをエコシステムの場として捉え、島民を中心に、自然、島の歴史が一体になって関わっていく、「共生」する地域社会を目指します。

### 長谷川祐子氏（本展 アーティスティックディレクター）のコメント

「犬島は、環境との調和に配慮したエコシステムを体現した場所です。犬島「家プロジェクト」における私たちの活動を、アートと共に生活があることにより、どのように島や地域コミュニティが活性化し、生活が豊かになるかというモデルケースとして見ていただきたい。本展を通して、シンビオシス（利他共生）という思想や犬島の日常を追体験するだけではなく、いつか犬島を訪れるきっかけになればと願っています。」

### サイモン・ライト（ジャパン・ハウス ロンドン企画局長）のコメント

「他に類を見ない犬島におけるユニークな活動を、ジャパン・ハウス ロンドンで紹介できることを嬉しく思っています。ジャパン・ハウス サンパウロに続き開催される本展では、犬島「家プロジェクト」の変遷の物語、そして犬島で暮らす住民やそこで働く人々だけでなく、島を訪れる人々に与える影響について、幅広くご紹介します。」

### 【開催概要】

展覧会名：『Symbiosis: Living Island シンビオシス：生きられた島』展  
会 期：2022年5月21日（土）－9月4日（日）  
場 所：ジャパン・ハウス ロンドン（101-111 Kensington High Street, London, W8 5SA）  
時 間：月曜日～土曜日 | 午前10時～午後8時  
日曜日・祝日 | 午後12時～午後6時  
入 場：無料（事前予約推奨）

\* 展覧会公式ページは、[こちら](#)からご覧いただけます。

\* 当館の新型コロナウイルス感染症対策への取り組みについては、[こちら](#)をご確認ください。

### 【本展公式写真】

本展の公式写真は、[こちら](#)からダウンロードをお願いします。

### 【長谷川祐子氏インタビュー動画】

展覧会のコンセプトや犬島「家プロジェクト」について語る長谷川祐子氏のインタビュー動画は、[こちら](#)からご覧いただけます。

### 【長谷川祐子氏について】

金沢 21 世紀美術館 館長 / 東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科 教授。キュレーター／美術批評。京都大学法学部卒業。東京藝術大学美術研究科修士課程修了。金沢 21 世紀美術館を立ち上げ、東京都現代美術館を経て、2021 年 4 月から金沢 21 世紀美術館館長。最近の展覧会に、タイランド・ビエンナーレ（2021-22 年）、シンビオシス：生きられた島（ジャパン・ハウス サンパウロ、ブラジル、2021 年）、シャルジャパン 3：リメイン・カーム（シャルジャ芸術財団、アラブ首長国連邦、2021 年）、シャルジャパン 2：インター・レゾナンス、インター・オーガニクス（シャルジャ芸術財団、アラブ首長国連邦、2019-20 年）、デザイナー（アイルランド近代美術館、2019 年）などがある。国内では東京都現代美術館にて、ダムタイプ、オラファー・エリアソン、ライゾマティクスなどの個展を手がけた。主な著書に『新しいエコロジーとアート：「まごつき期」としての人新世』（以文社、2022 年）、『ジャパノラマ：1970 年以降の日本の現代アート』（水声社、2021 年）、『破壊しに、と彼女たちは言う：柔らかに境界を横断する女性アーティストたち』（東京藝術大学出版会、2017 年）など。

### 【妹島和世氏について】

1956 年茨城県生まれ。建築家。1987 年妹島和世建築設計事務所設立。1995 年西沢立衛とともに SANAA を設立。2010 年第 12 回ベネチアビエンナーレ国際建築展の総合ディレクターを務める。日本建築学会賞\*、ベネチアビエンナーレ国際建築展金獅子賞\*、プリツカー賞\*、芸術文化勲章オフィシエ、紫綬褒章などを受賞。主な建築作品として、金沢 21 世紀美術館\*(金沢市)、Rolex ラーニングセンター\*(ローザンヌ・スイス)、ルーヴル・ランス\*(ランス・フランス)などがある。現在、ミラノ工科大学教授、日本女子大学客員教授、大阪芸術大学客員教授を務める。

\*は SANAA として。

### 【ジャパン・ハウスについて】

ジャパン・ハウスは、日本の多様な魅力や政策・取組・立場を発信することにより、日本への理解と共感の裾野を広げることを目的に、外務省により世界の 3 都市（サンパウロ・ロンドン・ロサンゼルス）に設置された対外発信拠点です。



ジャパン・ハウス ロンドンは、日本文化への関心が高まる欧州の拠点として、ロンドン市内の文化的、商業的建造物が多く所在するエリアの目抜き通りケンジントン・ハイストリートに2018年6月に開館しました。アールデコ調の歴史的建造物の中の3フロアにわたり、展示ギャラリー、多目的スペース、ライブラリー、レストラン、カフェ、ショップを備えた複合施設として、アート、デザイン、食、建築、テクノロジーなど日本の多様な魅力を通して、真の日本との出会いを現地の人々に提供しています。

[公式ウェブサイト](#)

[Facebook](#)

[Instagram](#)

[Twitter](#)

[ニュースレターへの登録](#)

#### 【本展についてのお問い合わせ先】

ジャパン・ハウス ロンドン事務局 Marketing & Communications 課

担当：飛騨 香生里／ジュリア・マシエッティ

E-mail：[Kaori.Hida@japanhouselondon.uk](mailto:Kaori.Hida@japanhouselondon.uk)／[Julia.Mascetti@japanhouselondon.uk](mailto:Julia.Mascetti@japanhouselondon.uk)